

都 鳥



第4号

2008年11月版

題字「都鳥」は、伊藤幸子の書
花喰い鳥は西脇基夫のデザイン

添い寝の功德

--- 「都鳥」からのメッセージ ---

最近観た映画に『庭師との対話』というフランス映画がありました。主人公の画家は、パリでの放埒な生活に行き詰まりを感じて、生家のある田舎に移り住みます。彼は荒れ放題になっていた屋敷の一角に、むかし母が造っていたような菜園を造りたいと思い、庭師募集の広告を出します。すると、それに応じてやって来た庭師が、なんと小学校時代の悪童コンビの相棒だったのです。

早くからパリに出て都会性を身につけた画家と、地元に残って地味な仕事をこつこつとやって来た庭師との間には、当然かなりの距離が生まれていましたが、この映画は、その距離が、造園を介しての日々の交わりのうちに次第に埋まっていく様子を描いたものなのです。

彼らは何気ない会話を通して互いに理解を深め、画家の荒れすさんだ精神も漸く和んで、菜園も豊かに実を結んだ頃、庭師は病に倒れ、間もなく亡くなってしまいますが、折々に彼と交わした言葉の数々は、いつしか画家の心の中に深く根を下ろし、これからの彼の人生にとって得がたい道標となっていたのでした。

庭師の死期が近づいたある日、画家が彼の家を訪ねると、庭師は自分の菜園の陰元豆の陰に寝そべって仕事をしていました。画家がそんな格好では疲れるだろうにと言うと、庭師は答えました。「菜園が人生だから、見てくれ、今までで最高の出来だ。庭師が添い寝をすれば、野菜も喜ぶんだ。」

何とも味なこのせりふは、すこぶる重要な意味を含んでいます。野菜であれ花であれ、自分をかまってくれる人の情愛に応じて育つのですね。菊作りが菊のつぼみの上に手をかざすと、つぼみが嬉しげに開くということをごくどこかで聞いた覚えがあります。皆さんの中にも、お庭に花や野菜を栽培して、季節を忘れず咲いたり実ったりしてくれる健気な植物たちを、心から慈しんでいらっしゃる方が少なくないことを思い、本当に、生き物を育てるのは、その対象に対する思いやりと細やかな世話なのだというごく当たり前のことが、今更のように身に沁みただけでした。

(伊藤幸子 記)

伊藤 幸子

江戸川区中葛西 5-2-7-1005

誘蛾灯

高校時代、一年ほど名古屋へピアノを習いに通いました。週一回、授業が終わると、私は楽譜を入れたバッグを抱えて、富田からいつもとは反対方向の電車に乗り、名古屋へと向かいました。御園座の近くに、名古屋合唱団という音楽教習所があり、私はそこの先生をしていられた女性のピアニストからレッスンを受けました。楽しい経験でしたが、ショパンのマズルカの小粋なリズムがどうしてもつかめず、泣きたい思いをしたようなこともありました。

レッスンが終わると、戦後の荒廃からやおら立ち直り、大都會の面目を僅かに取り戻しかけた名古屋の街を駅へと急ぎました。帰りの近鉄で覚えているのはただ一つ、窓外に打ち続く青々と伸び揃った田んぼのそこここに、ほの白くまたいたっていた誘蛾灯の光です。

初夏の夕暮れに点々と灯った誘蛾灯は、それぞれ「優雅灯」と呼びたいくらい優しく淡い紫の光で、豊かに広がる緑の田んぼを飾っていました。17歳という若さ、ものを習うということの喜び、加えて、人間と自然のいみじき共存を讀んでいるような窓外の景色、それらが胸のうちに渾然として、私は目の前に繰り広げられる夢幻の光景に、飽きもせず見入っていました。

誘蛾灯は、私の中で美しい宝石となり、今なおまたたき続けています。



岩脇 昌生

西宮市殿山町5-26

琵琶湖一周ウォーキング

「お金」は無いが「時間」はあり余るほど持ち元気に暮らす毎日ですが、何か想い出に残ることを元気な時にと思い立ち、琵琶湖一周ウォーキングツアーに参加しました。「お一人でどうぞ」と女房にうまく断られ、単身で参加しました。

琵琶湖一周220キロ、瀬田の唐橋を起点に湖岸東側を北上、最北端から西側を南下、瀬田の唐橋を最終到着点として、16回に区分、一区間最長17.5キロ、最短9キロ、最長4時間強を一人黙々と歩きました。

琵琶湖を熟知したリーダーが同行、要所で遠景や名所、木々や草花の説明があり、四季折々に変化する湖の表情、カイツブリ、コハクチョウ等の水鳥、ハマナデシコ等の草花を観察し、古い集落や歴史的な名所、琵琶湖を詠んだ和歌、俳句の碑に立ち寄る等、楽しく歩くことが出来ました。湖北、湖西から、特に山から見下ろす湖の眺望は素晴らしいものでした。

歩き慣れていないため、初回14キロ半ばで両足が「こむら返り」。また、標高400メートルほどの賤ヶ岳の、長く続く上り下りの激しいウォークで息も絶え絶えにゴールした時、血尿が出て驚くというハプニングがありました。

一年半掛けてのウォーキング、果たして最後まで持つだろうか、緊張感をもってスタートした220キロでしたが、完歩した時の達成感は何とも言えないものでした。

健康こそが幸せの源、同窓の皆様には負けないよう元気で、素晴らしい人生が送れますように。乾杯！

川崎 章弘

浦安市入船 6-6-803

東京の伊勢の話

江戸時代、特に吉宗の時代「伊勢屋、稲荷、犬の糞」と言われるぐらい伊勢屋を名乗る店が多かった。

東京の日本橋界限は昔、伊勢町といわれていました。徳川家康が江戸開府にあたり、蒲生氏郷に命じ商業の発展のために伊勢より商人を多く呼び寄せました。

三越は松坂の三井呉服店、三井財閥発祥の地として今でも石碑があります。酒の国分も松坂、少し場所は離れていますが小津和紙も松坂、初代小津清左衛門が1653年に開業しました。刃物の木屋の初代は桑名。鯉節の“にんべん”は四日市、元禄12年(1699年)に開業、四日市なので特に敷衍しますと、鯉節は昔、贈答用に使われていました。贈られる方はいちどきに沢山来ると困るので、“にんべん”は引換券・商品券を出しました。世界で初めての商品券です。最近の鯉節は削って少量パックされております。これも“にんべん”が開発したもので、進取の伝統は生きています。

現在も日本橋界限で活躍している伊勢出身の商店どころを挙げました。



現在の“にんべん”日本橋本店

木村 達也

横浜市鶴見区東寺尾 5-5-43-203

トビリシ

随分以前に仕事でトビリシを訪れた。町並みが美しいグルジアの首都である。コーカサス山脈の南麓でカスピ海のバクから西に向かって黒海へ抜けるルート上の要衝でもある。

当時はソ連邦に組み込まれていて、モスクワの然るべき機関の人の同行が必要であった。

仕事先の人たちとの夕食になると色々話が出て来る。クレムリンではスターリン、ミコヤンを始めこの地方出身者が多くの重要ポストを占めていると誇らしげであった。

カスピ海沿岸は葡萄の原産地と云われ、当然ながらワインが素晴らしい。グルジアに接するアルメニアにはアルメニア・コニャックと称される抜群のブランデーがある。東洋からの珍客と言うことで私はそれを賞味する機会に恵まれた。とても美味しかった。

言葉・文字ともにグルジア語で、街の中には随所に標識が出ているものの同行の人は分からないと言う。歴史的な経緯を含めここはソ連ではない、東欧諸国と同様ソ連により制圧されているだけだと実感した。夕食会に出た誇らしげな話も抑圧された思いの裏返しであると理解するのに時間はかからなかった。

この地は古来より紛争と戦火が絶えない。今また、きっかけはどうあれロシアの策謀にうっかり乗ったのかその侵攻を受けている。地続きの国を守る事が如何に困難か、この現実是他国の善意を大前提としている気楽平和論への強い否定である。

小松 久子

三重県三重郡菰野町大羽根園青葉町 8-4

永き一人住まい

朝日に輝く早朝の鈴鹿連峰は山肌がくっきりと美しく、思わず幸せね！と声を合わせてしまう公園での体操の一刻です。此、菰野町大羽根園は四日市公害がやかましかった頃に開発されました住宅地で、自然の松林がそのまま分譲された静かな町でした。

此処に家を作ると云いました時は、姉たちや周りの者に、あなた一人こんな淋しい所に住める？なんて云われましたが、“住めば都”良い友人にも恵まれ永年楽しんでまいりました。ゴルフもコースへは“乗れば五分”、この年令まで出来るのはその故だと思っています。今やスコアには拘泥わず、広い芝生を歩く事が主目的の様相をていしてしておりますが、先日湯ノ山グリーンホテルでの同窓会で話がまとまり、九月末の日曜日に横山さん、舘さん、熊沢さんと三重CCでゴルフを楽しみました。戸谷さんや中島さんのお世話で二七会のゴルフ会が時々ありましたのは何年前の事になりますでしょうか。

近年、パラミタージュ美術館、町立の立派な図書館も出来、高齢者の住まいとしては快適とまでは云えませんが良い環境かなと思ひ、終の住み処になればと思っている今日この頃の永い永い一人住まいです。

高校を卒業してしばらくした頃、自宅に夏目漱石の文庫本“こころ”を送って下さった同級生がおられました。金沢の方の大学に進学されたとのことでしたが、その後お逢いする機会もなく、先日の同窓会で訃報をうかがうことになりました。唯一の四高時代の青春の思い出です。お

礼を申し上げる機会を失ってしまいました。ご冥福をお祈り致します。

潮崎 井久子 (池田)

四日市市前田町 7-3

最近思うこと

私は昨年9月自動車事故に遭いました。一秒の違いで大事故になるところでしたが、お蔭様で物損事故だけですみ、お互いの無事を感謝しました。

この事故に懲りてCO2削減のためにも運転をやめ、公共交通機関や徒歩で日々を過ごしています。

最近、新聞やテレビのニュースなどで「北極の氷や氷河が溶けている。大雨や洪水、干ばつなどが起こって農作物の収穫が減っている」などと報道され、ショックを受け、今まで以上に環境問題について考えさせられました。

今私達に出来ることは何か？問題が大きすぎて戸惑ってしまいますが、一人ひとりの工夫、自覚と行動が求められているのではないのでしょうか。

私は、ごみの減量、再利用、再資源化、節電節水などを心がけています。また、レジ袋の削減のため、エコパックを持参していますが、異論もあるようです。

温暖化防止には、森林による二酸化炭素吸収が有効な対策の一つとされています。その森林を伐採し国内で使用される割箸の量は、年間250億膳、平均的な木像住宅約二万軒分に当り、その96%を中国から輸入しているそうです。私は、先日友人から「マイ箸」をいただき、外食する時に使用しています。少しずつ輪がひろがりつつあるようです。

「塵も積もれば山となる」、一人ひとりの力は微々たるものですが、皆が意識し

て CO2 削減に協力すれば効果があると思います。子や孫たちのためにも、私に出来ることから実行しています。

後藤 隆三

川崎市多摩区三田 3-1-2-6-206

海と私（その2）

忘れ得ない海難救助

私が長崎海上保安部の巡視船あまくさに次席航海士として乗船していた、昭和36年の夏のことです。当時、東支那海は韓国が設定した「リ・ライン」のため極度に緊張していました。

20日余りの東支那海特別哨戒を終わって入港する朝でした。濟州島の西方で台風巻き込まれた魚船から発せられた SOS を受信し、長崎港の入り口から直ちに反転して救助に向かいました。

長い航海で生鮮食料は殆ど消費していたため、これからの救助の航海は、主食はおにぎり、副食は缶詰・干物、味噌汁の中身はなし、真水も少なくなっていたために風呂もありませんでした。燃料だけは充分ありました。

台風を中心に接近するにつれて風速は30mを超え、船首は波に飲み込まれるピッチング、船体は片舷45度以上ローリングするひどい揺れでした。乗組員はベッドにしがみついて寝ているか、スタンションにつかまって立っていなければならぬ有様でした。遭難船と会合し、このような状況下で80ミリのロープを漁船に渡して曳航を開始するまでの作業はとても危険なものでした。この状況を「修羅場」と呼んでいました。遭難した漁船を一週間かかって長崎まで曳航し、引き取りに来た漁協の僚船に引き渡したときのホットした満足感は今も覚えています。

中根 正雄

名古屋市南区平子 1-2-5 バーデンハイム 桃月 301

髪

生を受けて、早70歳半ばが過ぎ髭を剃る顔には老人性疣で汚れ、上を見れば髪は薄く絶壁頭の地肌が表われ胡麻塩化になれはてました。

小学生から高校までは毬栗頭で過ごし、大学入学を機会に長髪にしたところ縮れ毛が判明、そこでポマードの力を借りて七三に分けて仲間入りです。卒業後は仕事上油なしで、やや短毛で現在に至っています。

そこで、何故人間の頭は脳の進化により大きく毛が集中しているのでしょうか。多くの方は「髪は頭を保護するため」と言う、では「老人は命短きため保護する必要はないのか」と、尋ねると首をかしげる。成長に伴って髪型は男女の個性を表現する大切なものですが、生まれたときすでに存在していて、赤ちゃんは男女同型です。ここに答えがあります。

胎児は頭髪を先頭に母からこの世に出る大切な滑る材料なのです。子宮内では自分の尿で作った羊水と自家製のバター胎脂を全身に塗って回転しながら泳ぐが如くお目出度となります。その証拠に洗顔洗髪をしないと脂腺が多いため油ぎってきます。

一方逆子は難産です。最初に産道より足が先行してくるため子宮の狭い出口で両手が万歳となり、頭の直径と両手との体積は増加し、それに顎がひっかかって分娩に時間がかかり息をしている臍帯が圧迫されて脳に酸素不足が生ずる危険があるからです。

言葉に一番前を先の頭と書くのはこれ

が由来かもしれません。お母さんは骨盤が大きく滑り台になるため、出っ尻なのです。

生川 紀子 (伊藤)

四日市市西新地 10-11

ジブラルタル海峡に沈む夕日

スペインのアンダルシアセルビアに在住する娘夫婦と夕日探しの旅に出ました。イベリア半島は地中海と大西洋が入り混じり、海は蒼く、スペイン人が愛してやまない空は、太陽と月と星を育み、抜けるように蒼く美しく、碧と蒼の交差する水平線は吸い込まれそうになるくらい輝いています。

私はカデイスの海で夕日をじっと待っていました。灼熱の太陽がゆらゆら揺れて海に沈むのを初めて見ました。水面がオレンジ色に反射する凄い迫力に、思わず拍手喝采してしまいました。

夕日大好きな私は折角ここまで来ているのだから、ジブラルタル海峡を渡ってアフリカ大陸に行ってみたいと思いました。アルヘンシーラから3時間半船で、モロッコのタンジールに着きます。ジブラルタルを通る船上からアフリカ大陸が見えて来た時トテモ興奮しました。「ここは日本の裏、アフリカなのだ！」

モロッコに着いたとたんに、国全体が異様な雰囲気包まれていました。男はシュラバ、女はカフタンと呼ばれるカラフルな民族衣装でぞろぞろ歩いていました。とても暗い陰気な印象でした。

2時間いただけでまた船上の人となり、メインの夕日を見ました。午後10時、ジブラルタル海峡に落ちる夕日はでっかく真っ赤で、周りは金色に輝いていました。感動で心も揺れました。

西脇 基夫

藤沢市湘南台 6-55-1

打ち水

ある夏の日、所用があり知人宅を訪ねた。前もって訪問の意図は伝えてあったのだが、訪ねると門が半開きになっていて、庭に打ち水がしてあった。インターホーンで来意を告げると奥様が出てこられてお座敷に通された。机の上には、すでにお菓子が用意されていた。冷たいお茶を出されて「お菓子をどうぞ」と挨拶を受けた。

ただこれだけのことであるのだが、そこには日本人が忘れかけている客をもてなす礼儀があった。準備をして私の訪問を待ち受けてくださった先方の好意を肌身感じて深く感激した。子供のころ来客があると、母に言われて嫌々ながら玄関先の掃除と打ち水をした記憶がある。最近はずっかり忘れられたようだが、昔はごく当たり前の客を迎える礼儀作法であったのである。私たちは、いつのまにか日本人のよさを忘れかけているのではないだろうか。

私は、68歳になってから茶道を習い始めた。動機は毎日を無為に過ごすよりはなにか習い事をすると思ってのことであったのだが、茶道には日本人の心が凝縮されている世界があった。この茶道を知ったおかげで、訪問先のおもてなしの心に気付くことができたのであるのだが、以前の私ならば先方の気遣いを特別に感じることもなく、簡単な謝辞を述べて、お茶とお菓子をいただいたのではないかと思うのである。思い出せば、まことに恥かしい思いがする。



藤田 哲雄

愛知県愛知郡長久手町岩作色金 44-12

オーロラ

卒業してからそのまま住み着いてしまった大学（途中で新設の大学にうつりましたが）を6年前に定年で退職しました。その機会に以前からあこがれていたオーロラを見に3月にフィンランドに行きました。オーロラは写真で見るとかなりはっきり見えますが、実は人工の明かりと比べてずっと弱く、いい写真を撮ろうと思ったら真っ暗なところに行かなければなりません。スノーモービルに引張られた吹きさらしのそりはとても寒かったですが、真っ暗な原野で初めて見たオーロラは幻想的でそれ以来取りつかれてしまいました。

一般にはオーロラは冬に見るものと思われていますが実は季節には関係なく出ています。ただ暗くなければ見えないので夜の無い真夏は無理です。それと高度100km以上に出ますので途中で雲があったら見えません。夜が暗くて天候さえ安定すれば見えます。ですから8月下旬から9月いっぱいには寒くなくて写真撮影には絶好な時期です。それでフィンランド以来年に2、3度いろんな所に出かけています。今のところいい写真が撮れたのはちょうど1/2です。

わりにきれいに撮れたと自分では思っているのをお目に掛けます。これをご覧になって一度見てみたいと思う方が出てくださることを期待します。



幽玄の世界 オーロラ



湖に浮かぶ火星 2003年8月27日

カナダ・イエローナイフ・グレートスレーブ湖
火星が最も地球に近づいた日である。



ピンクがかかった渦 2005年12月29日

ノルウェー・トロムソ



濃紺の空に炎 2007年8月31日

アメリカ・アラスカ・チエナ温泉

(藤田哲雄さん撮影)

藤田 弘幸

横浜市港南区港南台 4-5-13-103

ハマの後期高齢者

何時の間にやら後期高齢者になってしまった。ネーミングが悪い！長寿高齢者・・・、敬老・・・とネーミングについての議論はあったが、内容については、余り議論がされなかったように思う。

健康保険組合が大幅な赤字を抱えているので、今後増加する高齢化社会において、このままの制度で運営していけば、健康保険制度が崩壊してしまう。

政府としても、今後増加する高齢者の医療に対して、別途の保険制度を確立し、高齢者にも幾分かの医療費を負担してもらおう。地方自治体の財政状況によって負担金額に差が出るとの説明で、余り気にしていなかった。

いざ、後期高齢者医療保険料の案内が来てびっくりした。収入は変わらず同額だが、支払う保険料が42%upになっているので驚いた。

早速区役所に出掛け、仕組みについて伺ったところ、横浜市の国民健康保険は、独自に社会保険控除後の金額に対しての計算だったが、後期高齢者保健額は、全国一律で、社会保険控除額前の金額に対して計算される為、神奈川県内では、横浜市・川崎市の後期高齢者になった人には、保険料が大幅に上っているとの事。今年は8月までは控除した金額に対しての料率だったが、来年からは、控除期間無しで金額になるので、同一額で計算すると48% upになるようだ。

皆様方は如何でしょうか？これから後期高齢者に仲間入りされる方は楽しみにして下さい。

星野 歌津子 (和波)

藤沢市辻堂西海岸 2-6-4-203

初めての旅

忘れもしない昭和32年8月20日午前7時、上野駅より北海道東北を巡る旅に友人と3人で出発致しました。まだ東北新幹線も、青函トンネルもなく、急行列車の3等車で青森まで12時間、それから青函連絡船、函館本線と乗り継ぎ、札幌に着いたのが翌日の午前10時だったと記憶しています。パック旅行もツアーもまだなく、交通公社のカウンターで旅の行程、列車の乗り換え時刻、旅館の手配、路線バス等々、係の人と相談しながら一つ一つ組み立てていきました。

札幌の時計台、層雲峡、阿寒湖のマリモ、神秘的な摩周湖、屈斜路湖、雄大な美幌峠、支笏湖、洞爺湖、登別温泉、白老のアイヌ部落、函館山など、現在のように道路もまだ整備されておらず素朴な自然が多く残されていて、何十年過ぎた今でもその景観は目に焼き付いています。ガタガタバスに揺られ、夜行列車に乗り、十和田湖、日本三景の一つ松島まで足をのびた約半月の旅でした。その後、春の知床、夏の礼文、利尻、初秋のニセコ、冬の札幌雪祭り、網走、オホーツクの流氷祭りと、幾度となく北海道を訪れましたが、初めてのこの手作りの旅は、常に私の旅の原点にありました。

今では思うにまかせぬ旅心を、時刻表とガイドブックを眺めて、全国津々浦々のローカル線に思いを馳せることで慰めている今日この頃です。



吉田 智子 (藤井)

名古屋市港区西福田 1-2206

「鯉城学園」に通って

20年前名古屋市に設立されたこの名古屋市高年大学は、歴代の名古屋市長が学長で、全過程二年、60歳以上のシルバーエイジのみ入る事が出来る大学です。講義・授業以外にも学外実習やクラブ活動など、多彩で活動的な学園生活を過ごす二年間であり、今や大変な人気のようなのです。入学選定は抽選のみ。毎年5、6倍の競争率です。

3年越し応募の末、平成17年にやっと念願が叶いました。文部科学省規定の一般的課目履修はなされませんが、生活、文化、国際、健康、園芸など各科40名ずつのクラスに分かれ、全員がまた何らかのクラブ活動にも所属し、ベースの学科と同様、どのクラブでも盛んな活動が行われました。

私は正規の学科は「文化」、クラブは「英会話クラブ」に所属し、それぞれの授業や活動をこなす日々は、まるで二つの学科に入っているような勉強を余儀なくされました。予習、復習という課題から遠ざかって数十年、退化の一途を辿る頭脳を叱咤しながら励んだ日々は、やはりとても有意義で楽しい思い出となっています。

学園生活の中で更に特記すべき事は、学校主催の年中行事です。クラス旅行・体育祭・文化祭と、春から秋まで通常の授業の合間にこれらの準備、練習をします。クラス対抗のイベントを盛り上げるための準備は、夏休みも返上で行われ、一学年を終えた時には、各クラスの連帯感は一計り知れないものでした。学園生活の思い出を全て語るには、紙面がいくら

あっても足りません。高年になってかけがえのない日々を過ごせた我が人生を幸せに思います。

渡辺 喜久子 (後藤)

川越町高松 789

釣り

湯の山の同窓会の帰途、皆さんと一緒に鹿島さん経営の養鱒場に立ち寄りしました。釣りは初めての経験でした。楽しい経験になりました。

鱒の群 中の一尾を 釣り上げる



大学を卒業して某化学会社に就職した時に、研究所の農薬研究室に配属されました。以来 48 年間の会社生活の間、主に農薬の研究開発の仕事に携わってきました。農薬について投稿依頼を受けましたので、普段考えていることの一部を披露したいと思います。

本来であれば、農薬とは何か、それは必要か、などから議論をはじめるのが筋かと思いますが、紙面の関係上、ここでは、農薬は、現在 67 億人からさらに急激に増加しつつある世界の人類を支えるための食糧を安定して生産するために必要不可欠な資材である、というにとどめたいと思います。

さて、日本を含め最近の先進国で、適正な農薬の使用が原因の犠牲者（死者）はでていません。日本における自動車事故による死者は年間 1 万人に達しています。にもかかわらず、農薬に漫然とした不安を持ち、中には農薬禁止論などを掲げる人もいます。それはなぜでしょう？

一般論として、人は、言葉だけはよく耳にするけれども、実体はほとんどなじみのないものによるリスク（危険性）をより大きくとらえ（例えば、狂牛病、放射能）、自分で制御でき、なじみの深いものによる危険性をより小さくとらえる傾向（例えば、自動車）があるようです。食糧豊富な日本（および他の先進国）では、この社会が享受している農薬のベネフィット（恩恵）を認識することはとても難しく、半面、農薬に触れることはほとんどないので、なじみもなく、良く分からないものであり、従ってテレビや新聞、ことによると学校の教科書などでも喧伝される（往々にして不当に誇張された）リスクだけを過敏にとらえ、反農薬感情をつのらせているのではないかと考えられます。

さて、このような農薬の「リスク」を、逆の面から、つまり農薬の「安全性」について見てみたいと思いますが、その場合には、次の三つの分野に分けて考える必要があります。

- (1) 実際に農薬散布を行う農家や、農薬工場で製造に携わる従業員などに対する安全性。
(急性毒性の問題です。自殺、他殺、最近の冷凍餃子事件などのような故意や悪意による暴露なども含まれます)、
- (2) 田畑に散布された農薬が作物に微量に残留した場合に、その作物を食べることによって農薬を摂取する消費者の健康に対する安全性（慢性毒性の問題）、
- (3) 環境や環境生物に対する安全性。

農薬に直接触れる機会のほとんどない消費者が関心を持つ対象は主に上記の (2) であると思います。この安全性を確保するためには、一つ一つの農薬について、最低 25 項目にわたる実験動物を用いた毒性試験を行い、ヒトが毎日一生摂取し続けても何らの健康被害が起きない量（一日摂取許容量、ADI と略す）を定め、日本人が普通に食事をした場合に、ある食物中に万一その農薬が残留していても ADI を超えない値（残留許容量）を求めます。同時に、その農薬が使われる作物ごとの残留量の測定実験を行って、残留許容量を超えないような使い方（安全使用基準）が決められています。

最近の我が国の政府の調査では、許容量を超過した農薬が残留していた作物の例は、調査件数の 0.01~0.03% であったとのこと。この全体の 0.01~0.03% しかない作物を毎日毎日食べる確率は、限りなくゼロに近いことを考えれば、上述 (2) の残留農薬による健康被害については全く心配ないと言えるのではないのでしょうか。

後記：この稿を草するにあたり、僕の畏友である梅津憲治氏（前日本農薬学会会長）に、いろいろとご示唆をうけました。記して謝意を表したいと思います。

なお、農薬の安全性を考える上で有用なウェブ上のサイトがいろいろありますが、僕の見限りでは、下記が一般人にとって最も分かりやすいと思われました。ご参考までに

www.tk2.nmt.ne.jp/~tomozo/nouyaku/1.html 「小学生にもわかる農薬の話」

投稿のお願い

皆さんからの自由な投稿を歓迎します。日ごろの生活を中心に、思い出、将来の計画、なんでも結構です。500字前後を目安に、長くても600字を超えない範囲で投稿してください。仲間同士で投稿を促し、執筆者が増え、読んでくださる方が増え、だんだん輪が広がっていくことを期待します。遠くへ出かけることが億劫な人でも、これだといつでも参加できますから気楽に参加して下さい。

発行は、春秋の年二回、5月と11月に発行します。締めきりはそれぞれ4月末日と10月末日としますが、常時受け付けていますから、いつでも気楽に下記へお送り下さい。

(1) 伊藤幸子

〒134-0083 東京都江戸川区中葛西 5-2-7-1005

e-mail : itohs@tbd.t-com.ne.jp

(2) 西脇基夫

〒252-0804 藤沢市湘南台 6-55-1

e-mail : nishiwaki@ruby.plala.or.jp

原稿は、手書きでも結構ですが、電子メールですと編集の手間がかからなくて助かります。フォントの種類、大きさは問いません。自由なスタイルでお書きください。

この冊子「都鳥」は、三重県立四日市
高等学校、昭和27年（1952）卒
業生で作るエッセイ集です。平成19
年（卒業後55年）に同好者が集まり
創刊しました。